

モデル校における取組 ①上陽小学校の取組

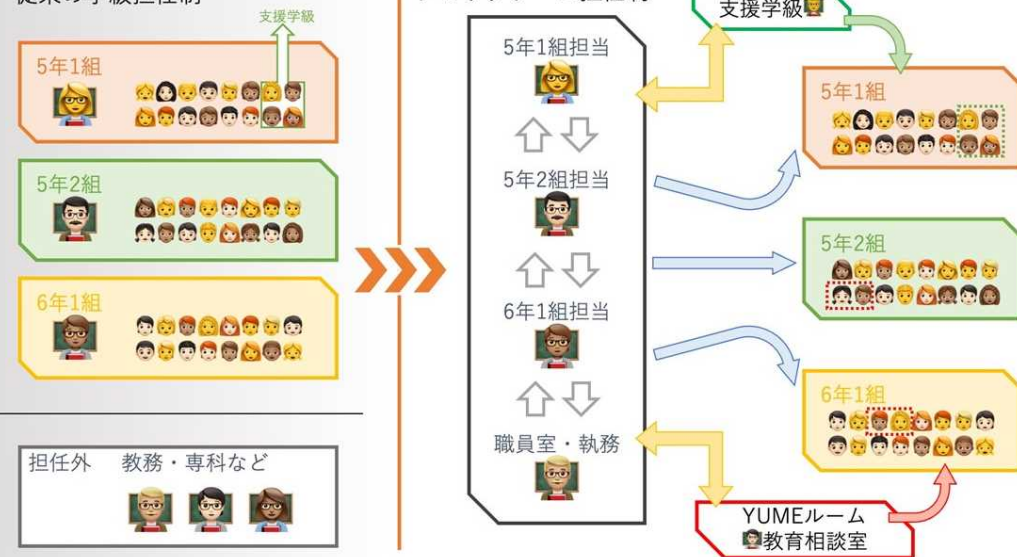
【資料 1】

学年を超えた多様な児童同士のかかわりや
様々な考えをもった大人とかかわる機会を増やす

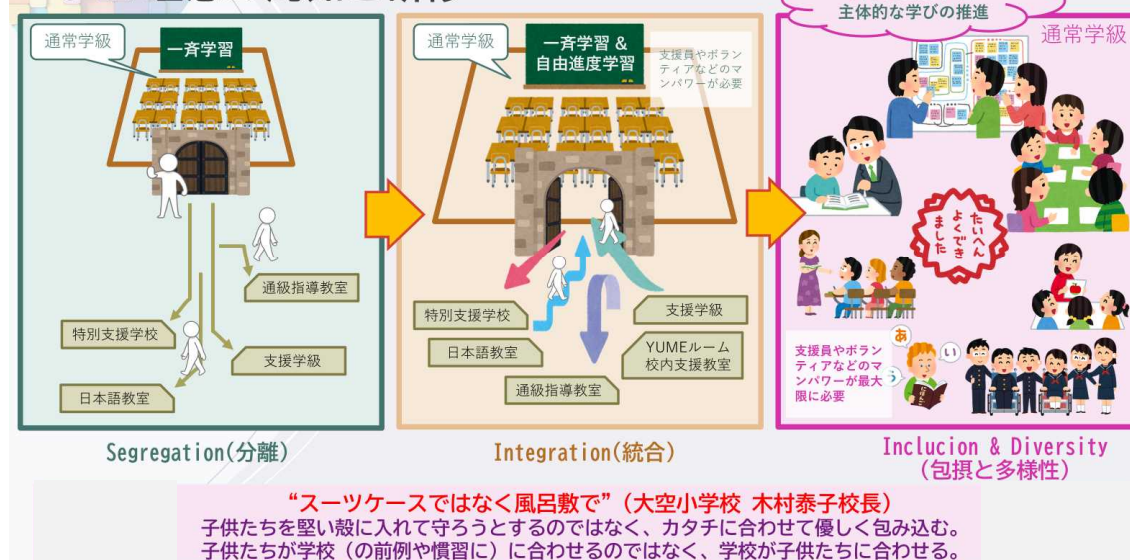
「教師が教える授業」から
「子供たちが主体的に学ぶ授業」へ

従来の学級担任制

ブロックチーム担任制



3-1. 理念の周知と研修



【上陽小作成資料から引用】

- ・ チーム担任制（複数担任）による多面的で多角的なサポートが、児童の見えない学力（非認知能力）を高めます。
- ・ チーム担任制（複数担任）により教職員の心的な不安や重圧、キャリアによる学級間格差が解消され、一人一人の強みを発揮する活躍へとつながります。

- ・ 知的好奇心を満たす専門性の高い授業や課題が提供されます
- ・ AI型学習ソフト（Qubena）と連携した自由進度学習を取り入れることで「自立した学び」の機会が作られます。

モデル校における取組 ①上陽小学校の取組

	低学年ブロック	中学年ブロック	高学年ブロック	支援学級ブロック
朝夕学活 給食	4月より交代開始。 担任を固定する印象を払拭しつつ、 発達段階に合わせて長期(2週間)での 交代とする。 システム・やり方を統一。 (中学年にスムーズに移行できるように 交代の頻度を徐々に変えていく。)	4月より毎日交代することによ り、担任固定の印象を払拭。 システム・ルールをブロックで 統一。児童主体の学級づくりを を目指す。	4月は毎日交代。5月以降は1週 間周期の交代に挑戦。 担任を固定する印象を払拭。 全職員で全児童の成長に関わる スタンスで。	それぞれの学級(3学級)で教 育課程や児童の実態が異なるた め、基本的には各学級対応とす る。給食は、支援級合同。
授 業	最初の一ヶ月はその時の担当が 授業を行う 5月中旬から教科担任制を実施。 他ブロックの教員による授業は 4月から実施(道徳、英語等)。	4月より教科担任制スタート	4月より教科担任制スタート 教師が専門性を高め、質の高い 充実の授業へ研究。	各学年ブロックの時間割と照ら し合わせ、支援級の枠を取り 払った合同授業(児童の実態に 合わせ異学年児童が共に学ぶ 場)を展開する。
総合的な学習 STEAM教育 探求的な学習	探究課題 夢を「つくる」	探究課題 こころを「つくる」	探究課題 未来を「つくる」	探究課題 生きる力を「つくる」
学活 学校行事等	合同実施で、学年を越えた学び 合い。 職員の効率的な働き方推進。	合同実施で、学年を越えた学び 合い。 4年生はリーダー、3年生はサ ブリーダーを意識し、行事を実 施する。	合同実施で学年を越えた学び合 い。 上陽小流のリーダー養成に主軸 を置き、下級生へも影響力を。 職員の効率的な働き方も推進。	支援級合同イベントを学期末や 学校行事の区切りの時期に実施 し、児童の頑張りを児童同士や 職員とねぎらう。
その他	行事を見直し、学年ブロックで 参加できるものに再編成。	行事を見直し、学年ブロックで 参加できるものに再編成。	行事を見直し、学年ブロックで 参加できるものに再編成。 低中ブロックからの流れを生か した構成に。	児童の特性を生かした運営がで きるよう、各学年ブロックの職 員と情報共有を図る。

【上陽小作成資料から引用】

モデル校における取組 ①上陽小学校の取組

R7 上陽小の校内研修

研修の流れ インクルーシブ教育モデル校事業として

R6年度 インクルーシブ教育モデル校 1年目

インクルーシブ教育の推進を目指す「未来の学校創り」
～ブロックチーム担任制を核にした見えない学力(非認知能力)の育成を通して～

R7年度 インクルーシブ教育モデル校 2年目

インクルーシブ教育の推進を目指す「未来の学校創り」
～「関わるからこそ学べる」授業創りを通して～

今年度は授業創りをメインに考えていきます。
ポイントは『アイデア × 思い切り』です。

R7校内研修 インクルーシブ教育の推進を目指す未来の学校創り「関わるからこそ学べる」授業創りを通して

関わるからこそ学べる授業 (環境と教具の相互乗り入れ)



研修主題

インクルーシブ教育の推進を目指す「未来の学校創り」
～「関わるからこそ学べる」授業創りを通して～

R7 上陽小の校内研修

授業創りのポイント 関わりとは？ 互恵的な学び＝双方にメリットがある。



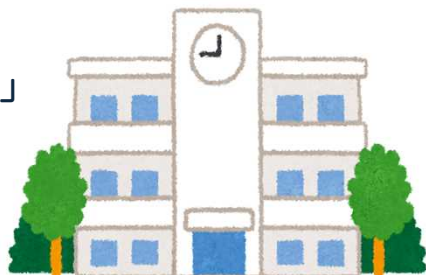
R7校内研修 インクルーシブ教育の推進を目指す未来の学校創り「関わるからこそ学べる」授業創りを通して

【上陽小作成資料から引用】

モデル校における取組 ②コラボレーター・インクルーシブ教育 A D

コラボレーター・インクルーシブ教育アドバイザーを配置

「その子に合った学び方」
「関わりながら学ぶ」
ことができる支援



玉村町立上陽小学校

コラボレーター 3名

コラボレーターの業務内容例

特別支援学校や特別支援学級の児童が通常の学級と一緒に学習する際、集団活動の中で子供同士が関わり合いながら学べるよう、言葉掛けをしたり促したりする



県立伊勢崎特別支援学校

インクルーシブ教育推進に係る
専門性・授業力向上のための
具体的・実践的支援

インクルーシブ教育
アドバイザー 1名

インクルーシブ教育アドバイザーの業務内容例

通常の学級に在籍する特別な支援を要する児童への対応方法や指導方法の助言及び提案
児童の特性把握のための観察や記録の整理
指導法・教材の工夫に関するコンサルテーション

モデル校における取組 ③交流及び共同学習



ユニバーサル上毛かるたプロジェクト
一般社団法人メノキとの合同授業

「みんなとつながる上毛かるた」

上陽小と伊特 (③④)

授業計画・ロードマップ (メノキとの合同授業)

①9月10日(水)ごろ 4年生
見えないって？見えるって？
三輪さんから学ぶこと
さわるカルタにふれる。
子どもの問い 目の見えない人と一緒にカルタをたのしむには？

③11月5日(水)ごろ 4年生
子どもがつくったカルタを評価してもらう
楽しみも含めて、見たことがない人がわかるには？
子どもの問い
本当に『助けてほしい』のかな？
そもそも自分たちは楽しめているのかな？

3年生参加
年下の子の素朴な意見を聞く機会になる。

ひまわり・伊特参加
いっしょに4年生が
作ったカルタを体験
してもらい、反応を
見てブラッシュアップする。

②10月8日(水)ごろ 4年生
子どもがつくった考えたデザインとメノキさんのカルタを比べるの会
子どもの問い 三輪さんは目が見えないけど、ほかの障害を持つ人も楽しむには、どんな『ハード(形や素材など)』や『ソフト(ルールやマインド)』が必要かな？
車イススポーツの大谷さんは何て言っていたかな？

④12月3日ごろ (授業公開) 4年生
交流 創ったカルタを通じて楽しむ。
子どもの問い みんなが楽しめるカルタはできた。この“ものづくり”のノウハウを使って、困った人を助ける道具、創れないかな？

ひまわり・伊特参加
いっしょに遊び交流する。

3年生参加 4年生のマインドに気づく。
4年生のアップデートを感じ取り、来年は自分たちという意識を醸成できる。

R8

上陽小

授業計画・ロードマップ (学校単体での授業)

学校での活動
上毛カルタの魅力を知る。
地名、行ったことがあるか、有名、カルタとして楽しい、親世代ほぼ知ってる、群馬ならではの などなど

学校での活動
他にはどんな形や素材、におい、手触り、温かさなどあるか考える。(ハード面)
遊び方やルールはどうしたらいいのか考える。

9月10日ごろ

11月5日ごろ

『みらいのケア』②
株式会社ケアコム様と

『みらいのケア』①
株式会社ケアコム様と

10月8日ごろ

12月3日ごろ

学校での活動
3D目の見えない人が楽しめるカルタを考えてみる。(イメージスケッチ、モデリング)
3Dプリンターを体験してみる。

学校での活動
遊びの確立をする。(ルールや見た目)
発表へ向けて資料を作る。
(ニーズ、自身の変化、未来の変化)